

(様式第6号 別紙)

## 長崎県福祉サービス第三者評価結果報告

### ① 第三者評価機関名

特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
---------------------------

### ② 事業者情報

名称:第二リタの心 療育学苑	種別:放課後等デイサービス
代表者氏名:理事長 藤原 浩	定員(利用人数): 10名
所在地:長崎県諫早市永昌東町22-48 Tel 0957-21-3122	

\*施設・事業所情報は、事業所プロフィール参照

### ② 施設・事業所の特徴的な取組

療育を必要とする乳児及び幼児、児童、生徒等を受け入れ、子どもたちが明るく、衛生的な環境の中で、心身ともに健やかに社会の一員として育成されることを目的としている。子どもたちの学習支援を中心に療育を行うことを軸にし、子どもたちや家族との対話を大切にしながら信頼関係の構築に努めている。職員一人ひとりの経験や目指す職員像に応じた研修の機会を設け、子どもたちの将来を想像しながら今を指導（療育）していく使命感を持って支援に取り組まれている。

### ④ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和6年5月7日(契約日)～ 令和7年3月31日(評価結果確定日)
受審回数(前回の受審時期)	初 回

## ⑤総評

### ◇特に評価の高い点

#### ① SWOT 分析による経営資源の最適化

地域課題・経営課題を可視化したSWOT分析を用いて、地域課題・経営課題を可視化し、課題改善や職員の人材育成に真摯に取り組まれている。理事長や主任は積極的に地域での会議へ出席し、地域ニーズを把握し地域課題に即した事業を展開されている。子どもたちが、自分たちがやりたいことを行える環境にあり、丁寧な関わりが持たれている。職員は子ども一人ひとりの特性を理解し、子どもの居場所づくりとして児童発達支援への専門性を深めている。

#### ② 理事長のリーダーシップと働きやすい職場環境づくり

職員の福利厚生としてインフルエンザ予防接種の事業所負担や、職員の個性を認める取り組みとして清潔感や機能性を考慮しつつカラーリングやピアスの使用など身だしなみを柔軟に緩和した。計画的な有給取得を促し、職員のライフワークバランスや働きやすい職場環境づくりに取り組み、理事長のリーダーシップが発揮されている点は高く評価できる。

#### ③ 子どもたちが自分を守るすべを体得できる取り組み

定期的な避難訓練の実施で非常災害時対策に取り組み、有事の際に子どもたちが自分を守るすべを体得できる取り組みがある。職員のこれまでの経験を活かし「おはしも」の約束を子どもたちに周知し、安全に避難できるよう理解を促している点は高く評価できる。

#### ④ 地域資源を活かした遊びや体験の機会の創出

将来、子どもたちが地域の中で安心して暮らせるよう、地域資源を活かして遊びや体験の機会を創出している。なかでも外行事として JR を利用し映画を見に行く際には公共交通機関を利用し、社会ルールを学ぶ機会に繋げたり、日頃から事業所で一定額のおやつを自分で選び購入する様子など、子どもたちが楽しみながら社会性を身に付けられる支援が行われている点は高く評価できる。

### ◇改善を求められる点

#### ① 理念の周知

開設から3年が経過し、事業所の理念が家族等に浸透するまでには至っていない。理念は事業所が大切にしている使命や方向性を示すものであり、誰もが理解しやすく家族の更なる安心に繋げるためにも、理念をわかりやすく家族に伝えるよう今後の取り組みに期待する。

#### ② 苦情解決のしくみの整備

現在は利用契約時に重要事項説明書を用いて説明しているとのことであるが、今回の利用者アンケート調査結果から、苦情解決のしくみへの理解が不十分な結果が認められた。事業所入り口へ意見箱の設置や苦情解決のしくみを明示することが望ましく、家族等にも知らせることで更なる安心に繋げる取り組みに期待する。

#### ③ 記録の文書化、明文化

職員はミーティングや研修会等に参加しているが、具体的な検討内容や話し合いの結果について記録が不十分な点が散見された。検討された結果について意見の集約や、後々の支援に繋げていくためにも記録について基本ルールを設定するなど改善することが望まれる。

## ⑥第三者評価結果に対する事業者のコメント(事業所記入欄)

1. 毎回 意見具申している「提出書類(コピー提出)が多すぎる。来園時確認できるものでもコピー提出となっている」が一向に改善されていない。

2. 評価結果は公開しているが、県や市の監査関係者(運営状況報告を含む)は確認して来園しているのだろうかと疑いたくなる。提出している書類も重複しているものが多く効率化が図られているとは言い難い。監査担当課 第三者評価機関等の縦横の組織は、確認して書類 項目提出を省いて欲しい。

3. 第三者評価は、その組織の健康診断的役割があると思うが、健康診断は体の全部像を把握して総体的に診断するものであって、評価者の専門部位を中心にみる評価者であってはならない。もっと総体的な視線で監査してもらいたいものであると考える。(木を見て森を見ずであってはならないと思います。もっと勉強してもらいたい)

4. 第二リタの心 療育学苑は、更なる自己研鑽が必要であると実感している。

## ⑦第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。

## ⑧利用者調査及び書面調査の概要

(別紙)

# 第三者評価結果（共通）

\*すべての評価細目（46項目）について、判断基準（a・b・cの段階）に基づいた評価結果を表示する。

\*評価細目毎に第三者評価機関の判定理由等のコメントを記述する

## 評価対象Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織

### I-1 理念・基本方針

		第三者評価結果
I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		
1	I-1-(1)-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b
<コメント> 理念・基本方針は利用者の見学時や、契約時に重要事項説明書やしおりで利用者にし、事業所が大事にしている考えを伝えている。職員には日頃の関わりの中で運営方針を倫理規定に基づき口頭で伝え、支援の方向性を確認している。事業所内の文書や広報媒体など客観的に母体ホームページに法人理念や基本方針を明示しているが客観的に明確とは言い難い。このことは利用者アンケート結果からも読み取れるため、今後更なる工夫が求められる。		

### I-2 経営状況の把握

		第三者評価結果
I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
2	I-2-(1)-① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a
<コメント> 経営状況や環境については全国的な動向や報酬改定など福祉計画の情報を効率よく収集を行っている。理事長による外部環境特性・組織内部環境特性と事業所の強みや弱みを経営管理シートで明文化し、SWOT分析を用いて現状の把握を行っている。諫早市子ども子育て計画書をもとに地域を取り巻く推移を把握し、事業所の外部環境特性や内部環境特性を明文化・分析のもとに経営の取り組みやテーマの設定を行っている。有資格者の採用など計画達成に向け、職員には人員配置や採用についてミーティングで職員へ伝え、事業所全体で取り組みが進められている。		
3	I-2-(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a
<コメント> 制度や報酬改定、また地域ニーズを踏まえた事業所が課題とする重点目標の実現に向けて、職員の配置や支援環境など経営状況の課題に取り組んでいる。中長期計画には現在の課題を抽出し、それぞれの項目に掲げた目標達成のスケジュールや行動が示されている。計画の進捗状況はワークシートを用いて確認し、部門での合同会議において、職員に報告や経営状況や改善すべき課題について共有されている。		

### I-3 事業計画の策定

		第三者評価結果
I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
4	I-3-(1)-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a
<p>&lt;コメント&gt;            経営ワークシートによる課題分析をもとに中長期計画を策定され、テーマに添って事業所全体で取り組んでいる。「目標形成と中期事業計画」を策定し、更に「経営管理ワークシート・環境特性分析と経営課題の明確化」を策定し、新築移転計画についても実行に向けて取り組んでいるとのことであった。</p>		
5	I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a
<p>&lt;コメント&gt;            単年度における運営方針や現在の課題を踏まえ、理事長の構想での計画がある旨聞き取りができた。中長期計画を実現するため関係する企業や団体等が関わり、実行に向けて取り組んでいるとのことであった。職員雇用に関し、専門職の採用を計画的に行い、今年度は言語聴覚士の雇用を実現したとのことであった。</p>		
I-3-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
6	I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
<p>&lt;コメント&gt;            年度末の会議において今年度の事業計画の振り返りがなされている。理事や評議委員会において実施状況や決算報告、次年度の収支計画をもとに今後どのように事業を運営していくのか話し合いがもたれているが、議事内容について一部職員の理解が不足している状況であった。年度末には子どもの最善の利益や、子どもの主体的な活動を促すなど運営方針の確認や部門間の合同会議で支援の振り返りがなされているが、具体的な事業計画を職員に周知されているとは言い難い。職員が事業計画策定への参画や、より事業計画を理解しやすいよう取り組むことを期待する。</p>		
7	I-3-(2)-② 事業計画は、利用者等に周知され、理解を促している。	a
<p>&lt;コメント&gt;            法人全体の事業計画については理事・評議委員会において話し合いがなされている。年1回、保護者評価を実施すると共に、保護者アンケートのほか、子どもや保護者との個別の対話によってもニーズの把握に努めているとのことであった。また、働く保護者に配慮し、保護者会の開催よりもたよりや送迎時の個別対話、SNS等での意見集約で事業計画を周知しているとのことであった。</p>		

## I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

		第三者評価結果
I-4-(1) 質の向上に向けた取組みが組織的・計画的に行われている。		
8	I-4-(1)-① 福祉サービスの質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
<p>&lt;コメント&gt;            毎月の部門会議やミーティングにおいて支援の状況やサービスの質の向上に向けた話し合いがなされ、子どもたちへの支援の姿勢や関わり方について互いに認め注意し合える雰囲気がある。職員は年2回、自己評価を実施し、子どもの最善の利益を踏まえ、子どもや家族との信頼関係を築けるよう福祉サービスの向上に努めている。理事長や管理者は自己評価結果を活用し日々のサービスの振り返り話されている。自己評価結果はワムネットで公表されている。事業計画、事業報告、決算報告、予算計画、自己評価、事業所評価、保護者評価等はいつでも園で閲覧できるようにしているとのことであった。</p>		
9	I-4-(1)-② 評価結果にもとづき組織として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a
<p>&lt;コメント&gt;            年2回の自己評価をもとに理事長はそれぞれの課題を把握し、改善課題については管理者や主任と共有化が図られている。特に自己評価が低かった項目については現場サイド全体の課題として捉え、改善策について話し合いが持たれている。改善計画についてPDCAサイクルで振り返り、より良い支援へと繋げるよう取り組まれている。</p>		

## 評価対象Ⅱ 組織の運営管理

### Ⅱ-1 管理者の責任とリーダーシップ

		第三者評価結果
Ⅱ-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。		
10	Ⅱ-1-(1)-① 管理者は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;            理事長および主任は職務分担表において職務内容や役割・責任を明文化し、部門会議やミーティングで事業所の方針や方向性を示している。家族等には契約時に重要事項説明書を用いて周知している。災害時や緊急時（不審者侵入時）における責任者として対応マニュアルに示し、不在時の権限移譲についても明示して職員に周知している。理事長と主任はこれまでのスキルを活かし、自らの経験や現場の声、保護者の声を集め、新しい声を取り入れながら職員に周知し、リーダーシップを発揮し理解を図っている。</p>		
11	Ⅱ-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;            理事長や主任は令和6年度障害福祉サービス等報酬改定に伴い、デネットでの研修や勉強会に参加し、法令への理解に努めている。主任は勉強会で学んだ制度の主なポイントをミーティング等で職員へ周知し、支援の目的を理解したうえで対応できるよう取り組んでいる。身体拘束と虐待防止を啓発・普及するための研修をそれぞれ年1回行い、法令の改定や障害福祉サービスの法改正にかかる研修会にも積極的に参加できるよう情報発信し、より柔軟に対応できる力を身につけることができるよう人材育成に努めている。</p>		

		第三者評価結果
Ⅱ-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
12	Ⅱ-1-(2)-① 福祉サービスの質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
<コメント> 理事長や主任は、日常的に支援に従事することで現場の理解に努め、職員への子どもや保護者への関わり方を示し、子どもや保護者からのタイムリーな課題をつかみながら意見や要望に対し迅速に対応できるよう努めている。定期的なミーティングでその都度現状の共有を図り、サービスの質の向上に向け職員と一緒に課題解決に取り組む姿勢で関わりを持っている。現場で生じた課題については、その場で解決できるよう職員と共に話し合い、具体的な方策を検討し取り組んでいる。		
13	Ⅱ-2-(2)-② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a
<コメント> 事業所では地域ニーズより児童発達支援の充実を目標に掲げ、専門性を活かした知育を指導する職員を求めている。理事長は現場に足を運ぶことで職員とコミュニケーションを図り、職員の保有する資格の把握や今後の目標について理解している。県や市主催の研修を中心にあらゆる研修に関する情報収集を行うと共に職員に受講を促し、理念や基本方針の実現に向け知見の共有に繋げながらより進化した療育や専門知識を有した職員の人材育成に取り組んでいる。		

## Ⅱ-2 福祉人材の確保・育成

		第三者評価結果
Ⅱ-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		
14	Ⅱ-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a
<コメント> 事業所では子どもの様々な特性に柔軟に対応できるよう専門知識を有した職員の育成・雇用を目指し、これまでの職歴や保有資格を活かし、さらに外部研修で知識を深めながら専門性を活かした支援に努めている。今後は作業療法士や理学療法士、言語聴覚士の雇用を目指しており、地域の学校訪問や人材紹介団体、職業安定所等へ足を運び採用活動を行っている。理事長は職員の身近な存在として関わりを持つことで職員意見を集約し、人材確保や定着、組織として働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。		
15	Ⅱ-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。	a
<コメント> 法人の理念・基本方針に基づき、年2回実施する自己評価表に期待する職員像を示し、振り返りの機会を持っている。就業規則や給与規定には採用や異動、昇進・昇格にかかる基準を明文化し職員に周知している。理事長や主任は年に2回、職員との面談を通じて目標設定を行い、定期的に面談をして資格取得や目標達成に向けた取り組み状況の確認がなされている。理事長は職員の将来像の聞き取りを行い、職員から希望があれば法人内で異動することも検討している。将来に向けた専門性や技術を習得できる環境を整え、職員が目指す姿の実現に向け取り組んでいる。		

		第三者評価結果
Ⅱ-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
16	Ⅱ-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a
<p>&lt;コメント&gt;  事業所では、働きやすい職場づくりを大事にし、有給休暇の積極的な取得に向けて取り組んでいる。理事長は職員との会話の中から業務負担や悩みなど職員の就業状況の把握に努めている。今年度は職員の希望によりインフルエンザの予防接種を事業所負担とするよう内規の見直しを行った。また、職員の個性や多様性に配慮した取り組みとして髪の毛の色やピアスの使用を認めた。毎年の職員への健康診断やメンタルヘルスの研修、産業医への受診など職員の体調や家庭の事情など管理者に相談しやすい環境にある。職員の互いの個性や意見を認め合い、困った際には事業所全体で助け合う雰囲気が見える。</p>		
Ⅱ-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
17	Ⅱ-2-(3)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;  組織として「オールマイティーな職員・明るく衛生的な環境を整え心身ともに健やかに社会の一員として活躍できる職員」と示している。理事長は日頃から現場で職員との関わりを深めることで職員一人ひとりの目標を把握している。日常的に事業所内での出来事や支援に関することをミーティングで話し合い、知見の共有や人材育成に繋げている。理事長は職員の資格取得や専門性を深められるよう経験年数や実績に応じた研修を職員に案内し、事業所が求める人材育成に向けバックアップ体制を整備している。理事長との面談時には進捗状況や目標達成度の確認を行い、次年度の目標について話し合いが持たれている。</p>		
18	Ⅱ-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a
<p>&lt;コメント&gt;  子どもの最善の利益を守ることと柔軟な支援に繋げるため、主任は諫早こどもデイネットの研修へ積極的に出席し、地域の動向や情報収集に努めている。理事長は経験年数や所有資格に応じた研修を案内し、将来の人員配置に備えている。職員はWEB研修や外部研修、法人内の部門ミーティングへ参加し、専門性を深める取り組みがなされており、復命による外部研修後には研修内容について学習する機会を設けている。職員が子どもの特性に柔軟に対応できるスキル取得を目指し支援に活かすよう取り組んでいる。</p>		
19	Ⅱ-2-(3)-③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a
<p>&lt;コメント&gt;  理事長は、職員それぞれが取得している資格についてファイルで管理し、苑内外研修開催要領を整備し、研修の目的を明示している。時間外苑内研修は自主研修となるが、WEB研修や外部研修への参加を職員に促すなどして実際に必要とする知識や技術水準の向上を図っている。新規採用職員には経験年数を持つ職員により個別のOJTを実施し、倫理観や必要なスキルを取得できる体制を整備している。階層別研修を積極的に取り入れ、専門性を深める機会の提供や、研修参加後のミーティングでは研修報告を行うなど知見の共有を図っている。</p>		

		第三者評価結果
Ⅱ-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
20	Ⅱ-2-(4)-① 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
<コメント> 現在は学校からの研修生受け入れの要望や機会はないが、事業所では職場体験（実習生受け入れ）実施要領を整備し、実習の目的や受け入れ日時、事前指導・事後指導、依頼元との打ち合わせ事項、実習プログラム等を明記している。心構え講習会でマナーについて学ぶ機会を設定し、福祉サービスに関わる専門職の教育・育成に取り組んでいる。専門職種の特性に合わせたプログラムの準備は特に設けていないが、職員の動きや子どもの様子を見ることで特性の理解に繋げ、実習生と共にプログラムを組み立て、役立つ実習に繋げていきたいと考えている。		

### Ⅱ-3 運営の透明性の確保

		第三者評価結果
Ⅱ-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		
21	Ⅱ-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b
<コメント> 法人ホームページより事業所の活動や子どもの生活の様子が確認でき、また、法人の定款・役員名簿・役員報酬に関する規定・財務諸表等についても公表し閲覧できる。但し、事業計画や苦情の状況について公表されていない。利用契約時には重要事項説明書を用いて苦情窓口や苦情解決のしくみを伝えていると訪問調査時に聞くが、福祉サービスを利用しようとする者が適切かつ円滑に利用できるような情報の提供が求められており、また、当該家族アンケートからも周知不足が窺え、職員からもホームページを活用した課題改善策について提案もあり、今後、情報公開する事項を検討し公表する取り組みに期待する。		
22	Ⅱ-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
<コメント> 定期的に行われる理事会において規定関係、辞令関係、内規・決議関係、収支報告や法人全体の事業計画の進捗状況について確認が行われている。毎年、年度末には帳簿の見直しや内部監査によって適正な事務処理や運営がなされ、理事からの意見等には誠実に対応している。外部の専門家による監査支援等は受けていないが、財務や事業については理事長が関係機関に確認し、適切な運営に繋げている。第三者評価調査や県の監査結果・指導事項に基づき経営改善を図り、適正な運営に努めている。		

## Ⅱ-4 地域との交流、地域貢献

		第三者評価結果
Ⅱ-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。		
23	Ⅱ-4-(1)-① 利用者との交流を広げるための取組を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;            法人として「地域に大事にされる事業所」を目指し、地域行事への参加や事業所周辺の地域と交流を保ちながら子どもが地域で自立した生活が送れるよう取り組んでいる。行事で餅つきを行った際には隣接する商業施設へつきたての餅を届けたり、町おこし隊と共に畑の手入れに参加し、地域に根付いた活動に事業所として参加している。外出日にはJRを利用して映画を見に行くなど社会資源を利用して電車や映画館でマナーを学ぶ機会にも繋げ地域参加を広げることに繋げた。地域の公民館へパンフレットを置き、住民の理解に向け取り組んでいるとのことであった。</p>		
24	Ⅱ-4-(1)-② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a
<p>&lt;コメント&gt;            法人としてボランティア受け入れマニュアルを整備し、「人間関係の大切さや生きていく上での資質を高める」・「自分を見つめなおし広い視野での進路について考える機会に繋げる」などボランティア受け入れ目的の明示がなされている。希望があれば受け入れる姿勢も持っているが、これまでにボランティアの希望者がなく、受け入れの実績はない。理事長が実習指導者として活動しているとのことであった。</p>		
Ⅱ-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。		
25	Ⅱ-4-(2)-① 福祉施設・事業所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b
<p>&lt;コメント&gt;            事業所に社会資源一覧表を整備し、職員間で機会ごとにミーティングやケース会議で情報の共有化が図られているが、放課後デイサービスに関わる社会資源（児童相談所など）については、資料の収集や相談窓口など関係機関を追記するなど再整備が必要と思われる。主任は諫早市こどもデイネットに出席し、連絡会へ積極的に出席し連携する姿勢で関わりを持っており、デイネットで出された課題については事業所へ持ち帰り、事業所内で協議して次回会議で報告するなど共通課題として捉え積極的に取り組んでいる。理事長は地域の町内会総会に出席し、本部周辺の地域にも事業所の理解を図り、利用者の状況に柔軟な対応ができるよう取り組んでいる。</p>		
Ⅱ-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
26	Ⅱ-4-(3)-① 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a
<p>&lt;コメント&gt;            主任は諫早市主催のこどもデイネット会議に出席し、情報交換や情報収集・意見交換を通して地域の福祉ニーズの把握に努めている。現在は利用者の気になることを会議で発信し、地域全体の課題として検討の機会を図り、「困りごとや話したいことがあればいつでも」と地域の福祉ニーズに答えたい姿勢を持っている。地域の中で主体的に活動できるまでには至っていないが、今後は広報活動や情報発信、場所を活かしながら地域に愛される施設づくりを目指し取り組んでいる。</p>		

		第三者評価結果
27	Ⅱ-4-(3)-② 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a
<p>&lt;コメント&gt;            事業所として公益的な具体的な活動はないが、理事長はライオンズクラブとの関わりを通して本部の周辺に施設備品の貸し出す（発電機やテント、AED、園庭や地域の避難所としての解放）など、社会奉仕活動を行い、地域社会に奉仕と友愛の姿勢で関わりを持っている。本部地域の会議（老人会や高齢者のいきいきサロン、商工会議所青年部OB会など）への出席を通して地域への協力の姿勢を示し、地域ニーズについて情報収集を行っている。理事長は今後も更に地域活動に尽力し、地域貢献に繋げていきたいと考えている。</p>		

## 評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

### Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

		第三者評価結果
Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		
28	Ⅲ-1-(1)-① 利用者を尊重した福祉サービス提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;            重要事項説明書、及び契約書において子どもの意思決定や意向を尊重することを明示しており、子どもの尊厳を大事にした関わりが読み取れる。法人としても倫理綱領を策定し、子どもへの尊厳や人権、身体拘束や虐待防止の研修を年1回行っており、不適切な声掛けがあった際には職員同士が互いに注意し合える雰囲気がある。関わり方、尊厳、言葉など互いに話し合う機会を持ち、子どもへの関わりについて振り返りの機会を設けたが、職員によっては理解不足も窺われる。主任が常時支援に関わることで職員による子どもの関わり方や対応等、表情変化を確認し、不適切な関わりを行うことがないよう法人全体で取り組んでいる。</p>		
29	Ⅲ-1-(1)-② 利用者のプライバシー保護に配慮した福祉サービス提供が行われている。	a
<p>&lt;コメント&gt;            法人では倫理綱領を整備し、子どものプライバシー保護や虐待防止に関する研修を通して具体的な事例を検討し理解の浸透を図っている。SNSや事業所便りなど、子ども達の活動報告を行う上で使用する写真や動画の利用に関して子どもや保護者の承諾を得ており、子どもが他人から見られたり知られたりすることの自由を保護している。外部からの問い合わせやキーパーソン以外への対応など、保護者の確認がないと対応できないと統一することで個人情報の漏洩防止に繋げている。着替えや排泄の場面においても、基本動作の見守りで対応し支援が必要な際には同性職員が介入しプライバシー保護に努めている。</p>		
Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
30	Ⅲ-1-(2)-① 利用希望者に対して福祉サービス選択に必要な情報を積極的に提供している。	a
<p>&lt;コメント&gt;            パンフレットや広報誌については市役所に配布、また市のホームページに掲載し、事業所の地域理解を図っている。パンフレットに使用する言葉づかいや写真は柔らかな色合いを使用し、子どもに対し安心できる印象を感じさせるものとなっている。一日利用や体験などの受け入れ体制もあり、実際に利用することで文字では伝わりにくい事業所や支援の雰囲気を感じる事もできる。ホームページには運営方針やサービス内容の情報発信がなされている。第三者評価結果などの施設情報は、いつでも園で閲覧できるようにしているとのことであった。</p>		

		第三者評価結果
31	Ⅲ-1-(2)-② 福祉サービスの開始・変更にあたり利用者等にわかりやすく説明している。	a
<p>&lt;コメント&gt; サービス開始前には保護者と共に動画を見ながら活動実績や四季を通して活動の紹介、重要事項説明書の読み合わせを行うことで運営の理解に繋げている。子ども達にも分かりやすい写真や、柔らかな色づかいで作成されたパンフレットには、施設利用時の一日の過ごし方や活動の目的が分かりやすく示されSNSでの写真や動画配信からも支援の目的や思いを読み取ることができる。今回、報酬改定によって利用料の変更があったが、契約の変更時には1件1件主任が保護者宅を訪問し、丁寧な説明と理解を促している。</p>		
32	Ⅲ-1-(2)-③ 福祉施設・事業所の変更や家庭への移行等にあたり福祉サービスの継続性に配慮した対応を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt; 開設してから他事業所への変更実績はない。事業所への変更や家庭へ移行があった際には、これまでの症状や特性を移行先へ伝え、本人本位に協力する姿勢を持っているが、現在は引継ぎ文書の様式がなく、職員が口頭などにより情報を伝達することに留まっている。サービス終了後も保護者の不安に寄り添い、いつでも連絡可能であることを伝えるようにし安心感に繋げている。毎月のモニタリング会議（相談員、各事業所の職員、保護者等が出席）、相談窓口の案内、アフターフォローの手順の確認等、きめ細かに行っているとのことであった。</p>		
Ⅲ-1-(3) 利用者満足の向上に努めている。		
33	Ⅲ-1-(3)-① 利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt; 今年度は行事への考え方や送迎時間など具体的な支援内容について適宜家族アンケートを実施し、意向や満足度の確認を行うことで、改めて外行事に関する意向の確認ができ、子ども達の活動範囲への広がりを見せた。家族会や懇親会の開催は働いている保護者の状況を考慮して最小限としているとのことであった。</p>		
Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。		
34	Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
<p>&lt;コメント&gt; 苦情解決については理事長が苦情解決責任者、児童発達支援管理責任者が苦情受付担当者となり、第三者委員2名を設置している。苦情解決体制と手順、公的機関の相談窓口を重要事項説明書に明記し、利用開始時に子どもや保護者へ説明を行っている。但し、苦情解決のしくみを分かりやすく説明した掲示物や、意見箱の設置には至っておらず、今後、事業所入り口へ意見箱の設置や苦情解決のしくみを明示し、家族等にも知らせることで更なる安心に繋げる取り組みに期待する。</p>		

		第三者評価結果
35	Ⅲ-1-(4)-② 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、利用者等に周知している。	a
<p>&lt;コメント&gt;  子どもが要望や相談がしやすいスペースを整備している。SNSを活用して情報発信し、必要に応じて紙媒体を使用し家族の意向等を確認している。保護者等の意見の把握についてもSNSツールを活用しており、保護者等も理解し使用しているの十分であると考えているとのことであった。</p>		
36	Ⅲ-1-(4)-③ 利用者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a
<p>&lt;コメント&gt;  子どもが相談しやすいよう個別に対応できる部屋やリラックスマーム等のスペースを確保している。職員は子どもの相談や意見を傾聴し、組織的かつ迅速に対応することに努めている。相談を受けた職員は、その内容を個別記録に残し職員間で情報を共有している。子どもの意見等について即決即断を旨としているとのことであった。</p>		
Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。		
37	Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a
<p>&lt;コメント&gt;  過去1年間に安全確保の対策で問題は発生していない。事故発生時の対応と安全確保についてマニュアルを作成し職員に周知している。法人内にリスクマネジメント委員会を設置し、同委員会への参加は当苑を熟知している理事長が参加しているとのことであった。また、リスクマネジメント責任者は辞令簿にて発出しているとのことであった。</p>		
38	Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における利用者の安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;  過去1年間に安全管理の体制で問題は発生していない。感染症の予防と発生時等の対応マニュアルを作成し、初動対応、休業の対応、感染拡大防止体制別に、理事長、職員の役割と担当者、担当者不在の場合の代行者等、管理体制を整備し、定期的に見直しを行っている。現状に応じた感染症予防策を講じ、発生時の対応が適切に行われるよう努めている。長崎県や諫早市からの情報提供、指示に従いその都度情報共有を行っているとのことであった。</p>		

		第三者評価結果
39	Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における利用者の安全確保のための取組を組織的に行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt; 立地条件等から近隣の河川氾濫による災害の予測と影響を考慮し、サービスを継続するために必要な対策を講じている。子どもには、おはしも「押さない、走らない、しゃべらない、戻らない」と伝え、安全に避難できるよう理解を促している。備蓄に関し、賞味期限等を管理する担当者は辞令簿にて発出しているとのことであった。また、職員には毎回避難訓練等を通して消火活動を訓練を行っているとのことであった。入所時に災害用BCPを説明し、避難情報発令時は早期避難、早期帰宅を実践しているとのことであった。</p>		

### Ⅲ-2 福祉サービスの質

		第三者評価結果
Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。		
40	Ⅲ-2-(1)-① 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルが整備されており、その対応方法について、全職員に周知されている。	b
<p>&lt;コメント&gt; 過去1年に不審者の侵入は発生していない。不審者侵入時の緊急連絡（警察・救急）の要領、不審者侵入時の役割分担、不審者対応の流れ、防犯対策マニュアルを整備している。子どもの特性に応じて屋外で知らない人に声かけられた場合の訓練を行うなど事業所内に留まらない訓練の実施を行っている。不審者侵入を想定した場合のマニュアル等を整備しているが、各職員が担当している役割について周知状況が十分とは言えない。マニュアルの定期的点検や見直し時に各職員が担当する内容を確認する機会を設け周知することが望ましい。</p>		
41	Ⅲ-2-(1)-② 提供する福祉サービスについて標準的な実施方法が文書化され福祉サービスが提供されている。	a
<p>&lt;コメント&gt; 職務分担表に児童発達支援管理責任者の職務内容や、指導員の業務を明記し、指導計画の作成、療育実務の実施、保護者との連絡調整、療育記録資料等の整理・保存に関することなど役割を明確にしている。子どもや保護者の意向を確認し、相談支援事業所が作成したサービス等利用計画、障害児支援利用計画をもとに児童発達支援管理責任者が個別支援計画原案を作成し、その内容を個別支援会議に諮り検討している。子どもの尊重、プライバシーの保護や権利擁護に関わる姿勢を明示し、子どものニーズに沿った短期目標・長期目標を立て職員に周知徹底し各職員が計画に沿った支援に努めている。</p>		
42	Ⅲ-2-(1)-③ 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
<p>&lt;コメント&gt; 年度初めに子どものADL、行動面、アレルギー、活動状況、趣味、楽しみ、療育面、学習面、社会性、意思表示、手段等についてアセスメントを実施し、現状を把握し検証している。計画の見直し時期は概ね6カ月に1回であるが、検証を踏まえた上で必要であれば適宜見直しを行い、見直し前に子どもや保護者から意見や提案を聞き取り、福祉サービス実施計画に反映させている。</p>		

		第三者評価結果
Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		
43	Ⅲ-2-(2)-① アセスメントにもとづく個別的な福祉サービス実施計画を適切に策定している。	a
<p>&lt;コメント&gt;  福祉サービス実施計画策定の責任者は児童発達支援管理責任者である。毎日午後からのミーティング時間を利用して各利用者についてのモニタリング会議を行い、アセスメントによる課題解決のための目標と目標達成に向けた具体的な対応と利用者一人ひとりの具体的なニーズが明示されたサービス実施計画に反映させる等、組織で定める手順に沿った福祉サービス実施計画を作成している。困難事例ケースについては児童相談所・要保護児童対策地域協議会・学校等と連携を図り積極的かつ適切な福祉サービスの提供を行っている。毎日午後からのミーティング時に福祉サービス実施計画どおりに福祉サービスが行われていることを確認している。</p>		
44	Ⅲ-2-(2)-② 定期的に福祉サービス実施計画の評価・見直しを行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;  利用開始から1年目は2カ月ごとに、その後は半年ごとに福祉サービス実施計画の見直しを行い、全職員が参画してモニタリング会議や担当者会議を開催し検討している。子どもの意向を把握し同意を得るための手順を定め、職員意見を聴取し計画に反映させる等、見直しによる変更内容も全職員へ周知徹底している。子どもの状況に応じて緊急に変更が必要な場合のしくみを整備している。職員は毎日の午後のミーティングで意見を出し合いながら課題を明確にして支援している。</p>		
Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。		
45	Ⅲ-2-(3)-① 利用者に関する福祉サービス実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化している。	a
<p>&lt;コメント&gt;  子どもの身体状況や生活状況を組織が定めた個別学習支援・療育日誌に記録している。活動日誌、業務日誌、学習支援、療育日誌の記録により情報の分別を明確にしている。各職員は記録を読み込み情報収集したり、午後のミーティング時に情報共有を行っている。現在法人内で共有フォルダを利用して事業所内や法人内の第一リタの心との情報交換や情報共有を行っている。記録要領に関し記録内容や書き方について職員へ口頭で記録の指導を行っている。着眼点や書き方について職員で差異が生じることは否めないが、職員が理解できていることが肝要であり実践する事実を見ることが大事であるとのことであった。</p>		
46	Ⅲ-2-(3)-② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	a
<p>&lt;コメント&gt;  児童発達支援管理責任者が記録管理の責任者となっている。個人情報保護規定により、子どもの記録の保管等、文書保存期間を定めている。個人情報等の記録は鍵付きの書庫に保管し、シュレッダーを使用して廃棄までを行う規定を定めている。利用開始時に保護者等に個人情報取り扱いについて説明している。職員の入職時に個人情報の取り扱いについて雇用契約書を用いて説明し、誓約書を交わし個人情報漏洩防止に努めている。あらゆる時間において職員間のコミュニケーションがとれており、職場内のチームワークも良いとのことであった。</p>		

# 評価細目の第三者評価結果（障害者（児）施設）

\*すべての評価細目（19項目）について、判断基準（a・b・cの段階）に基づいた評価結果を表示する。

\*評価細目毎に第三者評価機関の判定理由等のコメントを記述する。

## A-1 利用者の尊重と権利擁護

		第三者評価結果
A-1-(1) 自己決定の尊重		
1	A-1-(1)-① 利用者の自己決定を尊重した個別支援と取組を行っている。	a
<コメント> エンパワメントの理念に基づく個別支援として子どものできないところばかりに視点をおくのではなく、できることに焦点をあてた目標を設定し、できた時には賞賛する等、子どもの自信に繋がる個別の意思を尊重した取組を行っている。フロアにはおもちゃのレジヤ、価格が異なる種類のお菓子をおき、子どもが課題に取り組ん後にはおやつを楽しみに食べ、選択や金銭感覚を養っている。本人が使った金額の記入を自身で行ったり、ブロック組み立てを真剣に取り組む子どもが積み上げた作品を1週間程度そのまま掲示する等、自己決定を尊重し、本人の能力に応じた個別支援を行っている。		
A-1-(2) 権利擁護		
2	A-1-(2)-① 利用者の権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
<コメント> 過去1年間に行動抑制や身体拘束等は発生していない。虐待防止委員会・身体拘束防止委員会の設置に関しマニュアル化しているとのことであった。利用者の権利擁護に関し、行動抑制や身体拘束等は発生していないことを確認した。		

## A-2 生活支援

		第三者評価結果
A-2-(1) 支援の基本		
3	A-2-(1)-① 利用者の自律・自立生活のための支援を行っている。	a
<コメント> 持ち物は子ども自身で管理する等、将来、自立した生活をイメージし、個別に必要な課題を設定している。時計の読み方の理解や、金銭感覚を養う工夫としておやつコーナーを設置し、金額を明示したお菓子と所持している金銭に見合った買い物をする等、自己管理ができるよう職員は見守りの姿勢を基本とし、必要時には職員が迅速に対応する支援を行っている。自律・自立のための動機付けとして、使用した物は自分で片付けするよう道具を収納する引き出しに写真を貼り、子どもが混乱することのないよう工夫している。		

		第三者評価結果
4	A-2-(1)-② 利用者の心身の状況に応じたコミュニケーション手段の確保と必要な支援を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;          子どもの特性に応じてイラストカードを使用してコミュニケーションを図ったり、発語が困難な子どもには会話が成り立つよう言葉遣いを工夫するなど、職員は子ども一人ひとりの特性を把握したコミュニケーションを行っている。意思表示や伝達が困難な子どもには保護者から自宅での様子を聞き取り参考にしたり、日直のタイミングを利用して定型文を型通りに言葉にすることから始める等、コミュニケーション能力を高める支援を行っている。現在対象者はいないが、コミュニケーション機器として必要に応じてタブレットのアプリを利用することができる。</p>		
5	A-2-(1)-③ 利用者の意思を尊重する支援としての相談等を適切に行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;          子どもの特性に応じてSST（ソーシャルスキルトレーニング）を個別やグループで実施している。子どもの日頃の様子や発言等で希望や意思を汲み取り、保護者からも希望や意向を聞き取り必要に応じて支援計画に反映し、職員による検討と共有を図っている。特に学力や進路について、保護者の意向を尊重している。活動支援の面では、外遊びが苦手な子どもは屋内で過ごすなど、集団行動や個人の行動等について子どもが決定し、特性や希望に沿った個別の活動支援に繋げている。</p>		
6	A-2-(1)-④ 個別支援計画にもとづく日中活動と利用支援等を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;          個別支援計画に基づき子どもや保護者の希望やニーズに応じた選択ができるよう活動プログラムの月行事メニューを提供している。子どもの生活力を身につけるため、調理、買い物、交通機関の利用、公共機関の活用等、多様化を図り、コミュニケーション能力やルールを学ぶための集団学習や、ゲームを取り入れるなど様々な情報を提供をしている。地元神社の祭りや豆まきに歩いて行って参加したり、老人会の素麺流しに参加する等、文化や伝統等を知る機会を設けている。</p>		
7	A-2-(1)-⑤ 利用者の障害の状況に応じた適切な支援を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;          子どもの障害状況について、アセスメントに記載している病名や症状を個々の職員が特性を調べ専門知識を習得すると共に専門的知識を持つ職員が他の職員に話をして共通理解に繋げ、支援の向上を図り、午後のミーティングにおいても情報を共有している。行動障害、手を出す等の症状については、個別に部屋で過ごして落ち着いてもらい、子ども間の関係の調整を行いながら、耳に入ってくる音に敏感な子どもにはイヤーマフを装着する等、個別的な配慮と適切な対応を行っている</p>		

		第三者評価結果
A-2-(2) 日常的な生活支援		
8	A-2-(2)-① 個別支援計画にもとづく日常的な生活支援を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;  個別支援計画に沿った活動プログラムによる生活支援が行われている。職員は施設内研修や外部研修に参加後は職員に伝達し、障がい特性を理解できるよう共有している。尚、事業所の特性上、食事の提供はない。休日は弁当の持参や購入、月1回、昼食作りとおやつ作りを楽しめるよう工夫している。また、入浴、排泄、移乗、移動の生活支援の対象者はいない。</p>		
A-2-(3) 生活環境		
9	A-2-(3)-① 利用者の快適性と安心・安全に配慮した生活環境が確保されている。	a
<p>&lt;コメント&gt;  日中活動の場やリラックスルームには転倒等を招くものは置いておらず、動線を確保し、適温に設定して安心・安全に配慮した明るい雰囲気環境を整備している。リラックスルームは身体を横にしたり決められた時間の中でテレビ観賞することができ、一人で居たい子どもは個室で、子ども達が思いおもいに過ごせるよう配慮している。共用の場やトイレ等は毎日職員が清掃を行い、月1回子どもが掃除する日を決め、ほうきの掃き方等、清掃道具の使い方を学習している。</p>		
A-2-(4) 機能訓練・生活訓練		
10	A-2-(4)-① 利用者の心身の状況に応じた機能訓練・生活訓練を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;  子どもの特性に応じてSST（ソーシャルスキルトレーニング）を実施し、掃除や配膳、金銭管理や買い物、身だしなみ等、生活の場面を意識した訓練を実施している。保育士が主体となり子どもの日頃の様子や発言等で希望や意思を汲み取り支援している。現在、養護学校経験者の養護教諭一種、保育士、認定心理士、児童厚生1級指導免許所持者といった職員配置を行っており、本年2月より言語聴覚士を採用することであった。</p>		
A-2-(5) 健康管理・医療的な支援		
11	A-2-(5)-① 利用者の健康状態の把握と体調変化時の迅速な対応等を適切に行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;  健康管理マニュアルに「毎日の健康観察」、「毎日の観察チェックポイント」に沿って職員は子どもの表情を観察し、健康状態を把握している。子どもの体調変化等があった場合に迅速な対応が求められるため対処法の手順を定めて周知している。薬の変更など職員ミーティングを通じて共有している。准看護師が週に1回、嘱託医師による都度の相談を行っているとのことであった。</p>		

		第三者評価結果
12	A-2-(5)-② 医療的な支援が適切な手順と安全管理体制のもとに提供されている。	a
<p>&lt;コメント&gt; 過去1年間に薬物使用の誤り等の問題が発生していない。子どもの嗜好やアレルギーを把握し、おやつ提供時には直接本人に確認をするようにしている。職員への医療的な研修に関し、医療行為は医師法違反に該当するため、医療的な支援に関する職員研修や職員への個別指導等は行っていないとのことであった。</p>		
A-2-(6) 社会参加、学習支援		
13	A-2-(6)-① 利用者の希望と意向を尊重した社会参加や学習のための支援を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt; 社会参加に関する情報提供とアンケートを実施し、子どもや保護者の意向を把握している。買い物に出かけ、レジでの支払いや、レジ袋の要・不要を伝えたり、セルフレジでの支払いを体験している。公共交通機関を利用し、バス料金を自分で料金箱に入れる体験や、図書館の利用のほか、会話をしたことのない人とコミュニケーションする能力を高め、集団ルールについて集団学習やゲーム等を用いて実施あうるなどしている。子どもの能力に応じた学習課題を提供し、個別支援の取り組みを行っている。</p>		
14	A-2-(7)-① 利用者の希望と意向を尊重した地域生活への移行や地域生活のための支援を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt; 事業所の特性上、地域生活へ移行することはないが、学校生活に移行する場合は関係機関と連携して保護者の意向等も加味しながら支援している。商店や図書館等、地域の社会資源を活用しながら子どもが意欲的に社会参加できる機会を設け、子どもが楽しみながら参加できるように事前学習を行っている。</p>		
A-2-(7) 地域生活への移行と地域生活の支援		
A-2-(8) 家族等との連携・交流と家族支援		
15	A-2-(8)-① 利用者の家族等との連携・交流と家族支援を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt; 子どもの意向を尊重し、特別の事情がある場合はその意思に合わせて柔軟かつ慎重に対応している。子どもの生活状況をSNSを活用して保護者に報告し、相談に応じるなどコミュニケーションを図っている。また、学校とも連携して情報を共有している。子どもの体調不良や急変時は健康管理マニュアルに沿って家族へ報告・連絡がなされている。保護者との面談は、定期的、突発的、偶発的、日頃の送迎等を含め総合的に行っているとのことであった。</p>		

### A-3 発達支援

		第三者評価結果
A-3-(1) 発達支援		
16	A-3-(1)-① 子どもの障害の状況や発達過程等に応じた発達支援を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;                      子どもの障害状況や発達過程等に応じ、基本的日常生活動作や適応行動の状況等を踏まえた子どもの活動プログラムを職員2名で作成し、他の職員意見を踏まえ、支援内容の工夫や見直しを行っている。学校関係者、担任教師、保護者、同法人の放課後デイサービス職員と会議を開き、情報共有や連携、調整を図っている。子どもの特性に応じて個別活動と集団活動を組み合わせて支援が行われている。</p>		

### A-4 就労支援

A-4-(1) 就労支援		
17	A-4-(1)-① 利用者の働く力や可能性を尊重した就労支援を行っている。	
		第三者評価結果
非該当		
18	A-4-(1)-② 利用者に応じて適切な仕事内容等となるように取組と配慮を行っている。	
非該当		
		第三者評価結果
19	A-4-(1)-③ 職場開拓と就職活動の支援、定着支援等の取組や工夫を行っている。	
非該当		

# 事業所情報（障がい者・児施設版）

（令和 6 年 10 月 1 日現在）

## 施設名

第二リタの心 療育学苑

## 1・基本情報

郵便番号	854-0071		
所在地	諫早市永昌東町 22-48		
TEL	0957-47-6710	ホームページ	Aizenkai.rita2@gmail.com
FAX	0957-47-6720	E-MAIL	kidsschool@beach.ocn.ne.jp
施設までの 利用交通手段	諫早駅東口 徒歩 5 分		
開設年月	令和 2 年 10 月 1 日	開所時間	放課後～18:00
敷地面積	116.79 m <sup>2</sup>	建物面積	111.66 m <sup>2</sup>
経営主体	社会福祉法人 愛善会	施設長名	藤原 浩

## 2・職員体制

専門職	常勤	非常勤
施設長	1 名	名
児童発達管理責任者	1 名	名
保育士	1 名	名
准看護師	名	1 名
嘱託薬剤師	名	1 名
嘱託歯科医	名	1 名
嘱託医	名	1 名
児童指導員	名	4 名

## 3・施設の理念・方針

療育を必要とする乳児及び幼児、児童、生徒等を受け入れ入所児童等が明るく衛生的な環境で、心身ともに健やかに社会の一員として育成されることを目的とする。

#### 4. サービス内容

対象地域	諫早市
対象年齢	小学生 中学生 高校生 (6歳から18歳)
定員	10

サービス名	備考 障害児保育 苑による送迎 延長保育
健康管理	・○
食事	・おやつを提供
休日	・×
地域との交流	・○
保護者活動	・○

#### 5. 事業所から利用者(希望者)の皆様へ

運営規定、葉に基づき受け入れます。  
熟読の上お申し込みください。

#### 6. 施設の公開、実習生、ボランティアの受入について

施設の公開・見学	実習生の受入	ボランティアの受入
随時受け入れます	中学生受け入れ実績	随時受け入れます

# 長崎県福祉サービス第三者評価 利用者調査結果

評価機関名 特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構

事業所名称	社会福祉法人 愛善会 第二リタの心 療育学苑
-------	------------------------

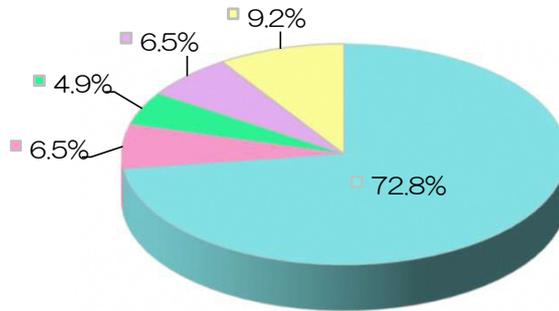
調査の対象・方法	対象：第二リタの心 療育学苑 利用者家族 方法：事業所より利用者家族へ調査表を配布し、返信用封筒にて、直接当機関へ返送する方法により実施した。
----------	--

調査実施期間	2024年8月1日～2024年9月10日
--------	----------------------

利用者総数（人）	20
調査対象者数（人）	20
有効回答数（人）	8
回収率（%）	40.0%

## アンケート結果平均

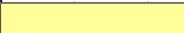
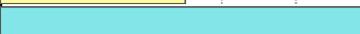
はい	134 件	72.8%
どちらともいえない	12 件	6.5%
いいえ	9 件	4.9%
わからない	12 件	6.5%
無回答	17 件	9.2%



総 評	<p>本アンケート調査は、調査対象者20人の家族より8人の回答を得て実施した。アンケートは、事業所より利用者家族へ送付し直接評価機関へ郵送する方法により実施した。</p> <p>調査結果は、問3「職員は親切、丁寧に対応してくれますか。」、問4「職員は何かにつけ気軽に をかけてくれますか。」、問7「職員はあなた(あなたの意思)を大切にしてくれますか。」、問11「不満や要望を気軽に話すことができますか。」、問12「職員は不満や要望に対してきちんと対応してくれますか。」、問15「施設の中で怪我をしたことがありますか。(いいえ)」、問20「食事はおいしく、楽しくたべられますか。」の問で100%の肯定的な回答を得た。この結果から、職員の対応が非常に良好であることが窺える。</p> <p>一方、問1「施設の理念や方針について、知っていますか。」、問10「苦情がある場合の受付や解決の仕組みについて、説明がありましたか。」、問22「病気やケガのときには、薬を飲ませてくれたり、病院に連れて行ってくれますか。」は約半数が「どちらともいえない・いいえ・わからない・無回答」との回答であり、これらの点について家族への情報提供や説明の面において改善の余地があると考えられる。</p>
-----	---

長崎県福祉サービス第三者評価 利用者調査結果（障害者・児施設用）

事業所名称	第二リタの心 療育学苑	有効回答数	8 人
-------	-------------	-------	-----

評価対象	No	質問項目	回 答	回答数	(%)	
全サービス共通項目						
施設の理念・基本方針	1	施設の理念や方針について、知っていますか。	はい		4 件	50.0%
			どちらともいえない		2 件	25.0%
			いいえ		0 件	0.0%
			わからない		2 件	25.0%
			無回答		0 件	0.0%
	2	【はいの場合】施設の方針は、自分にとって適切 だと思えますか。	はい		4 件	50.0%
			どちらともいえない		0 件	0.0%
			いいえ		0 件	0.0%
			わからない		0 件	0.0%
			無回答		4 件	50.0%
職員の対応	3	職員は親切、丁寧に対応してくれますか。	はい		8 件	100.0%
			どちらともいえない		0 件	0.0%
			いいえ		0 件	0.0%
			わからない		0 件	0.0%
			無回答		0 件	0.0%
	4	職員は何かにつけ気軽に をかけてくれますか。	はい		8 件	100.0%
			どちらともいえない		0 件	0.0%
			いいえ		0 件	0.0%
			わからない		0 件	0.0%
			無回答		0 件	0.0%
プライバシーへの配慮	5	「あなたが秘密にしたいこと」を他人に知られないように配慮してくれますか。	はい		7 件	87.5%
			どちらともいえない		0 件	0.0%
			いいえ		0 件	0.0%
			わからない		1 件	12.5%
			無回答		0 件	0.0%
	6	職員が居室にはいるときにノック又は了解を求めますか。	はい		5 件	62.5%
			どちらともいえない		0 件	0.0%
			いいえ		0 件	0.0%
			わからない		2 件	25.0%
			無回答		1 件	12.5%
利用者の意向の尊重	7	職員はあなた(あなたの意思)を大切にしてくれますか。	はい		8 件	100.0%
			どちらともいえない		0 件	0.0%
			いいえ		0 件	0.0%
			わからない		0 件	0.0%
			無回答		0 件	0.0%
	8	施設のなかでは「自分のしたいことができる雰囲気」がありますか。	はい		6 件	75.0%
			どちらともいえない		1 件	12.5%
			いいえ		0 件	0.0%
			わからない		1 件	12.5%
			無回答		0 件	0.0%
9	困ったことを相談できる職員がいますか。	はい		7 件	87.5%	
		どちらともいえない		1 件	12.5%	
		いいえ		0 件	0.0%	
		わからない		0 件	0.0%	
		無回答		0 件	0.0%	
苦情の方受け付け	苦情がある場合の受付や解決の仕組みについて、説明がありましたか。	はい		4 件	50.0%	
		どちらともいえない		2 件	25.0%	
		いいえ		1 件	12.5%	
		わからない		1 件	12.5%	
		無回答		0 件	0.0%	

不満や要望への対応	11	不満や要望を気軽に話すことができますか。	はい		8件	100.0%
			どちらともいえない		0件	0.0%
			いいえ		0件	0.0%
			わからない		0件	0.0%
			無回答		0件	0.0%
	12	職員は不満や要望に対してきちんと対応してくれますか。	はい		8件	100.0%
			どちらともいえない		0件	0.0%
			いいえ		0件	0.0%
			わからない		0件	0.0%
			無回答		0件	0.0%
職員間の連携・サービスの標準化	13	あなたが要望したことが他の職員にも伝わっていますか。	はい		5件	62.5%
			どちらともいえない		1件	12.5%
			いいえ		0件	0.0%
			わからない		2件	25.0%
			無回答		0件	0.0%
	14	職員はみな同じように接触してくれますか（職員によって言うことやすることに違いがありませんか）。	はい		7件	87.5%
			どちらともいえない		1件	12.5%
			いいえ		0件	0.0%
			わからない		0件	0.0%
			無回答		0件	0.0%
事故の発生	15	施設の中で怪我をしたことがありますか。	はい		0件	0.0%
			どちらともいえない		0件	0.0%
			いいえ		8件	100.0%
			わからない		0件	0.0%
			無回答		0件	0.0%
	16	【はいの場合】怪我をした後の対応は適切でしたか。	はい		0件	0.0%
			どちらともいえない		0件	0.0%
			いいえ		0件	0.0%
			わからない		0件	0.0%
			無回答		8件	100.0%
入所・利用開始説明	17	この施設の利用を始める前に、施設での生活や支援の内容についてわかりやすい説明がありましたか。	はい		7件	87.5%
			どちらともいえない		0件	0.0%
			いいえ		0件	0.0%
			わからない		0件	0.0%
			無回答		1件	12.5%
	18	実際に入所・利用してみて、説明どおりでしたか。	はい		7件	87.5%
			どちらともいえない		0件	0.0%
			いいえ		0件	0.0%
			わからない		0件	0.0%
			無回答		1件	12.5%
個別サービス項目						
進路や地域の支援	19	職員は、進路や家庭での生活等、あなたの今後について、支援や相談に応じてくれますか。	はい		7件	87.5%
			どちらともいえない		1件	12.5%
			いいえ		0件	0.0%
			わからない		0件	0.0%
			無回答		0件	0.0%
食事	20	食事はおいしく、楽しくたべられますか。	はい		8件	100.0%
			どちらともいえない		0件	0.0%
			いいえ		0件	0.0%
			わからない		0件	0.0%
			無回答		0件	0.0%
衣類、排泄等	21	入浴や排泄、身だしなみ等について、あなたの希望に応じてくれますか。	はい		5件	62.5%
			どちらともいえない		1件	12.5%
			いいえ		0件	0.0%
			わからない		1件	12.5%
			無回答		1件	12.5%

服薬の管理、 医療の管理等	22	病気やケガのときには、薬を飲ませてくれたり、病院に連れて行ってくれますか。	はい		4 件	50.0%
			どちらともいえない		2 件	25.0%
			いいえ		0 件	0.0%
			わからない		2 件	25.0%
			無回答		0 件	0.0%
所持金・預金の管理か	23	小遣い等必要な金銭については、自分の考えでつかうことができますか。	はい		7 件	87.5%
			どちらともいえない		0 件	0.0%
			いいえ		0 件	0.0%
			わからない		0 件	0.0%
			無回答		1 件	12.5%
その他自由意見						